



花・水・緑 人がつながり 夢ふくらむまち えにわ 恵庭市



恵庭市基礎データ

総人口	70,062人 [令和3年4月末現在]	製造品出荷額	155,163百万円 (R1工業統計調査)
高齢人口 (高齢化率)	19,674人 (28.1%) [令和3年4月末現在]	卸・小売年間販売額	121,924百万円 (H28経済センサス)
世帯数	34,321世帯 [令和3年4月末現在]	一般会計規模	27,879百万円 (R3当初予算)
人口密度	237.8人/km ²	市の花	スズラン
面積	294.65km ²	市の鳥	カワセミ
農業産出額	4,820百万円 (H30市町村別農業産出額)	市の木	イチイ (オンコ)

恵庭市の紹介

恵庭市の名前の由来は、恵庭岳を表したアイヌ語「エエンイワ (鋭くとがった山)」から転訛されたと言われています。市章は、市内を流れる漁川と島松川の2つの川の流域に位置する恵み豊かな地域を表し、組み合わせられた輪郭の線は、2つの流れを型取っています。また、「2つの輪」は「庭」に通ずるところから、中心の「恵」とともに市名を表しています。

地勢では、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、支笏洞爺国立公園に至る広大な森林地域と、そこを水源としサケが遡上する漁川の下流に広がる田園地域からなり、市内にJRの4つの駅があるほか、国道36号と道央自動車道が縦断する恵まれた交通アクセスを持つまちです。早くから住宅地整備を進めると共に、公共下水道の整備や大学・専門学校の誘致、工業団地などの都市基盤の整備が進められたことで人口は着実に増加し、令和元年9月には人口7万人を突破し、昨年11月1日には、昭和45年の市制施行から50周年を迎えました。

また、市民ガーデンが自宅の庭をオープンガーデンとして一般公開したり、花のイベントが開催されたりするなど市民主導による『花のまちづくり』が進められてきました。

また、赤ちゃんに絵本を贈る「ブックスタート」や市内のカフェやオフィスなどのスペースに本を展示する

「恵庭まちじゅう図書館」にも取り組み、誰もが読書に親しめ交流ができる

『読書のまちづくり』としても進めており、カントリーサインにも表現されています。



恵庭まちじゅう図書館

を見に行ってみてください（片道2時間程度かかります）。

これら以外にも、えこりん村、10pound、フォレストアドベンチャー・恵庭やサッポロビールの工場見学、農村部へ足を運べばジンギスカンのバーベキューができる余湖農園、いちごの収穫体験ができる島田農園などもありますので、一度来たことがある方はもちろん、恵庭を訪れたことがない方はこの機会に是非遊びに来てみてください。

第39回全国都市緑化北海道フェア （ガーデンフェスタ北海道2022） 開催

令和4年6月25日から1か月間、はなふるをメイン会場として第39回全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道2022）が開催されます。

全国都市緑化フェアは、国民一人ひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるための普及啓発事業として開催される、花と緑に関する国内最大級のイベントです。

道内では昭和61年の第4回さっぽろフェア以来2回目の開催となりますが、前回開催から30年余を経て、現在は地球温暖化防止や生物多様性の保全など環境に対する関心は高まっており、身近な暮らしにおける花や緑とのふれあいの意味も深まっていると感じています。

北海道フェアの開催意義は、1点目として、北海道の自然や花緑の資源とこれに関わる官民の取組みは観光やまちづくりなど地域活性化の重要なコンテンツであり、地域社会においては暮らしに潤いを与え生活の質を高めることから、フェア開催を契機に更なる発展が

期待されること、2点目として、盛んな花や緑のまちづくりに関わる市民活動の実績を広く全国に発信し、次世代を担う子ども達が住み続けたいとなる、新たな人々が移り住みたいとなる、心豊かな生活文化の創造に繋げること、3点目として花や緑、ガーデン巡りを目的に訪れる人々が多い北海道で、観光資源としてツーリズムの定着を進めるとともに、農、食、健康、景観、環境、通信などの産業と連携したポストコロナにおける地域振興の促進が期待されることにあると考えております。

これらの開催意義を踏まえ、北海道フェアでは開催テーマを「花と緑～恵みの庭を人がつなげる北の大地から。」とし、身近な花や緑が果たしてきた役割をあらためて見つめ直し、その価値や恩恵を身をもって感じることで、緑化意識を盛り上げ、さらなる都市緑化推進の契機とするとともに、本フェアを一過性のものとせず、市民だけでなく、道民、企業、行政が協働して花と緑のまちづくりに取り組んでいくことを目指しています。

会場は、はなふるや隣を流れる漁川の河川敷地である「恵庭かわまちづくり」区域、最寄り駅からメイン会場周辺のストリートガーデン等のまちなか会場があります。

メイン会場では、市民参加による花壇や道内外の企業・団体等による出展庭園や花壇、緑化作品などへの興味や関心を高められるような展示・出展や、北海道及び恵庭の魅力発信とにぎわいを創出する行催事が実施されます。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大により生活様式が大きく変わり、予定していた多くの事業やイベントが延期や中止を余儀なくされていますが、感染症の収束を願いつつ、万全の体制を整え、皆様のご来恵をお待ちしております。

花の観光と市民活動の拠点となる 「はなふる」

本市は平成28年度より、民間事業者と連携し、JR駅周辺への公共施設の統廃合による機能集約、エリアマネジメントや住み替えなどによる既存市街地の更新を進めてきました。多世代交流の推進、花やガーデニングのまちとしてのイメージや食などの地域資源を生かした交流人口の増加による幅広い地域産業の活性化を一体的複合的に進めるなど、歩いて暮らせるまちづくりをコンセプトとして、職・住・観光機能の拡充を目的とした「ガーデンデザインプロジェクト」を進めてきました。そのなかで、道と川の駅「花ロードえにわ」周辺を『花のビレッジ』と位置付け、恵庭市制50周年を迎えた令和2年11月11日に、花観光の拠点であり、市民や花関係団体の活動拠点となる「はなふる」がオープンしました。

はなふるは、野菜や果物、ハーブを観て楽しめる「キッチンガーデン」や、ピクニックやゆっくりに本が読める「大きなカステラが焼けるお庭」など、道内のガーデンナーによる趣の異なるコンセプトでデザインされた7つのガーデンがあります。令和3年よりフルオープンとなり、季節

によって色鮮やかな花が彩られます。ガーデン施設の中央には芝生公園や噴水、センターハウス内には屋内遊具施設えにわファミリーガーデン「りりあ」もあり、小さなお子様でも楽しめますので、是非遊びに来てください。

また、はなふる敷地内には、電気自動車専用の給電施設、屋内キッチンやシャワー室、屋外電源が利用可能なRVパークのほか、令和4年春にはパークPFIを活用した宿泊施設としてフェアフィールド・バイ・マリオット・北海道恵庭が完成します。

はなふると恵庭駅、恵み野駅の市内3箇所に、電動アシスト自転車のシェアサイクル「えにくる」のポートを整備しています。はなふるのセンターハウスには、市内の花の見どころや市民のオープンガーデンを紹介した花マップのほか、カフェやスイーツ、パン屋さんなどを地区ごとに紹介するフードマップもあります。また、時間に余裕のある方は、えにくるに乗って恵庭溪谷へ白扇の滝や紅葉



えにくる



りりあ



はなふる



恵み野オープンガーデン

を見に行ってみてください（片道2時間程度かかります）。

これら以外にも、えこりん村、10pound、フォレストアドベンチャー・恵庭やサッポロビールの工場見学、農村部へ足を運べばジンギスカンのバーベキューができる余湖農園、いちごの収穫体験ができる島田農園などもありますので、一度来たことがある方はもちろん、恵庭を訪れたことがない方はこの機会に是非遊びに来てみてください。

第39回全国都市緑化北海道フェア （ガーデンフェスタ北海道2022） 開催

令和4年6月25日から1か月間、はなふるをメイン会場として第39回全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道2022）が開催されます。

全国都市緑化フェアは、国民一人ひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるための普及啓発事業として開催される、花と緑に関する国内最大級のイベントです。

道内では昭和61年の第4回さっぽろフェア以来2回目の開催となりますが、前回開催から30年余を経て、現在は地球温暖化防止や生物多様性の保全など環境に対する関心は高まっており、身近な暮らしにおける花や緑とのふれあいの意味も深まっていると感じています。

北海道フェアの開催意義は、1点目として、北海道の自然や花緑の資源とこれに関わる官民の取組みは観光やまちづくりなど地域活性化の重要なコンテンツであり、地域社会においては暮らしに潤いを与え生活の質を高めることから、フェア開催を契機に更なる発展が

期待されること、2点目として、盛んな花や緑のまちづくりに関わる市民活動の実績を広く全国に発信し、次世代を担う子ども達が住み続けたいとなる、新たな人々が移り住みたいとなる、心豊かな生活文化の創造に繋げること、3点目として花や緑、ガーデン巡りを目的に訪れる人々が多い北海道で、観光資源としてツーリズムの定着を進めるとともに、農、食、健康、景観、環境、通信などの産業と連携したポストコロナにおける地域振興の促進が期待されることにあると考えております。

これらの開催意義を踏まえ、北海道フェアでは開催テーマを「花と緑～恵みの庭を人がつなげる北の大地から。」とし、身近な花や緑が果たしてきた役割をあらためて見つめ直し、その価値や恩恵を身をもって感じることで、緑化意識を盛り上げ、さらなる都市緑化推進の契機とするとともに、本フェアを一過性のものとせず、市民だけでなく、道民、企業、行政が協働して花と緑のまちづくりに取り組んでいくことを目指しています。

会場は、はなふるや隣を流れる漁川の河川敷地である「恵庭かわまちづくり」区域、最寄り駅からメイン会場周辺のストリートガーデン等のまちなか会場があります。

メイン会場では、市民参加による花壇や道内外の企業・団体等による出展庭園や花壇、緑化作品などへの興味や関心を高められるような展示・出展や、北海道及び恵庭の魅力発信とにぎわいを創出する行催事が実施されます。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大により生活様式が大きく変わり、予定していた多くの事業やイベントが延期や中止を余儀なくされていますが、感染症の収束を願いつつ、万全の体制を整え、皆様のご来恵をお待ちしております。

恵庭市の四季



【春】市内生産された花苗の幹旋販売



【夏】郷土芸能 すずらん踊り



【秋】恵庭溪谷の紅葉



【冬】えにわシーニックナイト